

JR札幌線住民説明会概要

資料 2 - 1



5月29日、月形町交流センターにおいて「JR札幌線住民説明会」を開催し、これまでのJR札幌線の経緯、協議事項に関するJR北海道からの回答内容の説明の後、参加者の皆さんから質問や意見を受けました。説明会の概要をお知らせします。なお、不明な点がございましたら問合せ先までご連絡ください。

○ JR札幌線の経緯

平成28年11月にJR北海道が「JRが単独では維持することが困難な線区」を発表した以降の主な内容です。

平成29年2月	北海道が「将来を見据えた北海道の鉄道網のあり方について」を公表し、鉄道網の6類型が示される
5月	第1回札幌線沿線4町長意見交換会開催（以後12月まで6回開催）
平成30年1月	第1回札幌線沿線まちづくり検討会議開催（意見交換会を改組し、規約を制定。議長に上坂町長が選任される）
3月	札幌線沿線まちづくり検討会議として、JR北海道との協議入りを表明 北海道交通政策総合指針が策定され、北海道としての維持困難路線の位置づけが示される
4月	月形町がJR北海道との協議をスタートさせる
5月16日	JR北海道西野副社長が協議事項の回答のため来町

○ 町とJR北海道との協議内容およびその回答

町では、札幌線を月形町まで存続の場合と全線廃線となった場合に分け、同時並行的に協議を行いました。町からの協議事項、それに対するJR北海道からの回答の概要は次のとおりです。

◆ 月形町まで存続の場合

町からの協議事項	JR北海道からの回答
北海道医療大学－石狩月形間の輸送密度、営業係数はどのくらいか。	石狩月形駅以北のみが廃線となった場合、輸送密度は147人（全線66人）、営業係数は2,020円（全線2,609円）。
札幌圏への通勤を一層可能とするためのダイヤの見直し、快速列車運行の可能性はあるか。	快速の運行は、設備増強や車両増備が必要なため困難。
月形刑務所駅の新設。	刑務所付近は山間部で路線勾配が基準を超え難しい。
沿線自治体が三セク等で鉄道を運営し、町まで鉄道を維持・存続させる場合、自治体へのJR北海道からの協力・支援はどのようなものがあるか。	沿線自治体が三セク等で鉄道を運営した場合は、バス転換のための費用相当額（代替交通への支援および鉄道設備の撤去費用）が負担できる金額の上限。将来、バス転換を行う場合の転換費用は、既に支払済みなので代替輸送は地元が負担。
札幌線の赤字額は、維持困難路線の中で一番少額。赤字額がどれほど圧縮されると維持存続が可能なのか。また、今後乗車人数が増加することが期待される場合は路線を維持する考えに変わることもあるか。	北海道医療大学－石狩月形間は損益額を見ると少額だが、営業係数を見ると採算性がとても低い状況。赤字の解消も重要だが地域に適した交通体系を相談していきたい。鉄道として残すことは難しい。

◆全線廃線の場合

町からの協議事項	J R 北海道からの回答
代替バスの運行は J R 北海道が自ら運行し、責任を持って対応すべきではないか。	代替バスの運行は、地元のバス事業者を優先する。地域の交通の確保については責任を持って対応する。地元のバス事業者が運行する場合は、自治体負担分を18年間支援する。現行鉄道の便数は上下15便だが、代替バスの便数は3便増便し18便としたい。
代替バスの運行に当たり、運賃および運行時間の試算を示すことはできないか。	運賃は鉄道運賃の1.3倍と設定し、支援する金額を算出する。バス転換となると現行鉄道運行時間より若干バスの運行時間は長くなる。
ターミナル機能を有し、町民が集い、交流できる複合施設整備などへの支援はできないか。	まちづくりに関連する取り組みにも一定額支援する。支援の活用方法は町で検討されたい。
北海道医療大学駅の整備とともに、J R 利用者駐車場を整備できないか。	北海道医療大学駅にバスターミナルを新設し、バリアフリー化、上屋を整備する。当別駅・大学駅間の列車本数も増便する。また、駐車場の整備は検討する。
他路線に先駆けた協議入りで支援の上積みは発生するか。	札沼線沿線自治体はいち早く協議を開始してくれた。各町の要望にはできる限り応じたい。

○参加者からの質問・意見

Q 1 (町へ) バス転換となってもそのバスの経営も赤字となるだろう。そうした場合の手立ては検討しているのか。

A 1 J R 北海道は、月形高校の通学生の足は責任を持って守っていくと言ってきており、今後、協議を進めていく。

Q 2 (町へ) 月形高校、P T Aにも説明の場を設けてくれるか。

A 2 高校やP T Aと話し合い、必要に応じ皆さんの意見を伺いたい。

Q 3 (町へ) 今回の説明会で現状がわかり一歩前に進んだ。交通網形成計画策定の関係で住民アンケートをすることとなっているが、決断の時期によって計画に影響するのではないか。

A 3 廃線の最終判断は、月形町だけでは決められない。4町で協議をしていく。今後の判断は計画策定に関連はあるが、個別のことと考えている。

Q 4 (町へ) 今日、回答書を手にしたが、すぐには理解できず、質問ができない。引き続き丁寧な説明してほしい。

A 4 今後、求めに応じ説明に出向きたい。

Q 5 (J R 北海道へ) 札沼線は札幌方面への生命線。鉄路で札幌とつながっていることは価値がある。通勤圏としての可能性は探れないか。

A 5 鉄道は大量輸送に適した交通機関で、少ない利用には鉄道以外に適した交通機関があると考ええる。

Q 6 (町へ) 町が結論を出すのは早いのではという気がする。国や北海道の方針を待って進めてはどうか。

A 6 すぐに結論を出すのではなく、町民の皆さんや沿線4町でも話し合って決断していく。



町では引き続き皆さんのご意見を伺いたいと考えております。出前町長室による町長の説明や担当者による説明のご要望があればお受けいたします。ご連絡をお待ちしております。